

皆様はじめまして。以下のタイトルで講演をさせていただきました。  
64期生の鈴木 章矢(すずき ふみや)と申します。  
今回は①講演要旨 ②講演を行っての感想を寄稿させていただきます。

## 「薬剤師って、どんな仕事？」～ITとの関連も併せて～

### ☆講演要旨

3章構成

第1章：薬剤師の仕事の概要

- ・ 病院編
- ・ 調剤薬局
- ・ DgS(ドラッグストア)編

第2章：薬剤師になるための準備

第3章：薬剤師とIT関連

- ・ 調剤とIT技術
- ・ 医療制度とIT技術

### ■自己紹介

平成26年に明治薬科大学 薬学部 薬学科に入学。学部5年生時に必修の実務実習で  
病院・調剤薬局を各11週間(2.5ヶ月間)ずつ経験しました。

卒後はDgSに就職し、OTC(Over The Counter：市販薬のこと)専門薬剤師を1年経験、  
転職し、在宅医療に力を入れている地域密着型の調剤薬局で1年勤務しています。

そのため、多岐にわたる薬剤師の仕事の中でも、  
病院・調剤薬局・DgSのOTC販売の3つについてご紹介させていただきました。

### 第1章：薬剤師の仕事の概要

#### ■6年制薬剤師のミッションとは

仕事の具体的な内容の前に、まずは我々6年制薬剤師が目指すべき心構えについて熱くお話ししました。

薬剤師は「薬の専門家」と言われますが、であると同時に、

「**薬物治療の専門家**」であるべきだと考えます。すなわち

**目の前の患者さんの訴えを聞いて、その患者さんに最適な薬物治療を提案する**  
を実践することが求められるでしょう。

(あくまでも私の意見ですが)特に4年制卒薬剤師にみられる、受動的な姿勢(Drに付き従うことを主とし、最低限の処方の間違ひだけは指摘しあとは言う通りにしておこう...)からの脱却。

6年制卒薬剤師には能動的な姿勢(積極的に処方に介入する)を持っていて欲しい。

具体的には、薬学的知識を用いて、自分の意見(治療薬や検査、診断など)を提案する。

今後薬剤師になられる方は、そういった意識や姿勢を持ち闘ってもらいたいなどお伝えしました。

#### ■病院での薬剤師の仕事の紹介

- ・ 病院では入院患者さんをみる
- ・ 輸液や抗がん剤の調整
- ・ ベッドサイドで服薬指導(薬、飲み方の説明に加え、症状や訴えの聴取も行います)

- ・各病棟・科ごとに、専任の薬剤師が常駐。その病棟の患者さんはその薬剤師がみる。
  - ・珍しいものだと、ICU(集中治療室)や手術室常駐薬剤師もいる
- ことをお話しました。

また、病院薬剤師として働くことのメリット(やりがい)もお話しました。  
病院はチーム医療の原点であり、同じ職場にいろいろな医療従事者がいる。  
すなわち、他業種のお互いのキヨリが物理的に近いことを挙げました。

これには2つのメリットがあります。

①入院患者さんの回診に同行できる

➡患者さん・Dr・薬剤師の3人でお話ができるため、その場で治療の提案ができる。  
またDrは専門科以外の薬に詳しくないため、薬剤師に意見を求められることが多々ある。  
(例：消化器科のDrは、かゆみなどの皮膚疾患はわからない。薬剤師が患者さんの皮膚の状態をみて、最適な痒み止めを提案する)

②情報へのアクセスのしやすさ：カルテがみれる

➡Drや他医療従事者の所見や診断名、検査値(血液検査やレントゲンなどの画像等)が閲覧できるため、患者情報を多く取得でき、より治療介入しやすくなる。

### ■調剤薬局での薬剤師の仕事の紹介

- ・調剤薬局での流れ(処方箋を受け取り、お薬をお渡しするまでの流れ)

➡処方箋を受け取り薬を取り揃えた人(Aさん)と、それを間違っていないかチェックする人(Bさん)が別にいる＝ダブルチェックをしていること

- ・各調剤(錠剤のピッキングや軟膏、水剤、散剤)の簡単な説明

➡使う専用の道具を写真で見せたり、やり方の紹介

- ・特殊な技術(一包化、疑義照会)の説明

➡冒頭でお話した積極的な処方介入。それが疑義照会で実践できるということ。

Drへの疑義照会：

〇〇だから違う薬がいいです(代替薬に何がいいかはわかりません、Drにお任せします)→△

〇〇だから◇◇という薬がいいと思うのですがいかがでしょうか→◎

- ・具体的な症例を基にした実際の疑義照会の例

➡LDLを下げる薬がでていますが、これでよいのだろうか？

血液検査の結果をみせてもらう。→LDLは正常。中性脂肪が高い。→中性脂肪を下げる薬へ変更すべきだ。→疑義照会→目の前の患者さんに最適な薬を提案→OK→その薬でお渡し。

もし受動的な姿勢であったならそのまま渡され、意味のない薬を飲むことになっていた。  
→能動的な姿勢でいることの大切さ、また考えたことが反映され助けることができる嬉しさをお伝えしました。

などをお話しました。

### ■DgSでのOTC販売の薬剤師の仕事の紹介

- ・来局した患者さん(お客さん)の健康相談に総合的に乗る(OTCカウンセリング)

➡症状や訴えを聞いてその患者さんに一番合ったOTC薬をオススメする

だけでなく、今どんな状態なのかや考えられる疾患を伝える。

養生法も伝え、それで解決し薬が不要そうなら、無理に薬を勧めたりしない。

健康食品やサプリメント、介護・衛生用品や医療機器の選択、相談にも乗る。

・受診勧奨とは

➡OTC薬では対応できない患者さんには、病院受診を勧めること  
ただ「受診してください」と言って終わり、ではなく、  
薬学・医学的に考えられる可能性のある疾患や状態、何科にかかったほうがいいのか  
受診した場合どんな治療や検査をするかも伝える。

・DgS：「薬剤師＋スーパーの店員」のイメージ

➡普通にレジ打ったり、食品(カップ麺や2Lコーラなど)の品出し、発注、値札の張替など  
薬剤師なのに、薬剤師でなくてもいい仕事もしないといけないこともある。

・具体的な症例を基にした実際のOTCカウンセリングの例

➡「最近、頭痛で悩んでいる。何かいい薬がないか」と相談を受けた事例を紹介。

→問診・鑑別の仕方、頭痛の病態を簡単に説明。

→症例を通して、生徒の皆様にも対応を考えて頂きました。

(例：どんな頭痛だと思いますか?)

→選択した薬や養生法の例をお伝えしました。

## 第2章：薬剤師になるための準備

・勉強の対策

➡受験科目に「化学」が必須。

なので高校に進学したら「**化学**」を特にできるようにしておくといいです。

勉強の仕方のコツとしましては

本屋さんで or ネットで、自分に合った問題集・参考書を探して買う

ことをオススメしました。

本屋さんでは立ち読みをして、自分に合うか見てみるとよいです。

大手予備校(東進や河合塾など)の問題集・参考書がわかりやすいかも?です。

ネットでは「高校 化学 オススメ」とかでググり、ベストセラーのものをみてみるとよいです。

➡オープンキャンパスに行ってみる。

雰囲気や設備、具体的なカリキュラムも知れる。

薬学生の生の声が聞ける(「在学生とのフリートーク」といったブースがある)。

→教授や学校側には聞けないこと(留年率や苦手な教授がいるかなど)も聞ける。

中3や高1でオープンキャンパスは早いのか?

→そんなことはありません!むしろ早いうちから見ておくといいです!

とオススメしました。

## 第3章：薬剤師とIT関連

最近は色んな分野でIT化が加速していますよね。

薬剤師業界でも例に漏らさず、IT化が進み、しかも国が積極的に推しています。

その一端を紹介。

■調剤とIT技術

➡ITを利用することで、調剤の簡単化・高速化

軟膏練太郎(自動軟膏混合機)

散剤自動分包機

→ヒトが行うのは計量するだけ。混合は機械が自動でやってくれる。

全自動水剤分注機

全自動錠剤分包機

調剤ロボット(ロボットアームによるピッキングマシン)

→ヒトが行うのは処方箋内容をPCに入力するだけ。調剤から完成まで機械が自動で行う。

◇機械に代替することで、調剤の簡単化・高速化を勧める狙いは何か？

→「**対物業務**」から「**対人業務**」へのシフト

→薬剤師は、薬学の知識を生かした専門的な仕事に注力するべきだ

⇒治療提案、渡薬後の継続的なフォロー、健康相談etc...(対人業務)

⇔ピッキングなどの薬の取り揃え(薬剤師でなくてもできる仕事：対物業務)に時間をかけていてはもったいない(専門性が発揮できない)

→対物への時間を、対人への時間へ転換したい

→そのために機械を利用し、対人への時間を作る

### ■医療制度とIT技術

2023年4月から保険証の機能がマイナンバーカードへ一本化されます。

各医療機関(病院や薬局)に設置されているカードリーダーにマイナンバーカードをかざすと処方箋の内容、過去の薬歴(お薬手帳の内容)、健診の結果が薬局側でデータとして見れる。

→薬剤師側のメリット：得られる患者情報が増える

→より治療に介入しやすくなる

→病院薬剤師のメリット「情報へのアクセスのしやすさ」が、薬局に付加されていく

以上のことをお話させていただきました。

### ☆講演を行っての感想

このような貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。

まさかこんな私に、母校での講演のお話が頂けるなんて思ってもおらず、未だに夢見心地のような思いでございます。

私自身、発表は、大学で数回行ったことはありますが、経験も浅く不慣れなものだったと思います。しかし生徒の皆様は真剣に聞いて下さいました。そのまなざしに襟を正す思いに、またパワーや勇気を頂きました。私自身の成長にも繋がりました。

在宅医療やEBMの具体的な実践など、お話したかったのですが時間の都合上できなかったものもありました。また各病気の説明、薬の作用の仕組みやOTC薬の使い分けなど、大学で習う薬学の基本からセルフメディケーションといった現場で使える知識など。

これらも機会がありましたらお話ししたいなと思いました。

最後に富井様、いずみ会の皆様、矢田様、生徒様、学校関係者様等に改めまして感謝申し上げます。